

行政視察報告書		
建設環境委員会行政視察		令和4年1月27日（木）
視察先及び 視察事項	長野県東筑摩郡朝日村	公共施設（朝日村役場・あさひ保育園）への地域産材の活用について
○ 朝日村庁舎 1 地域材活用の住民の意識の盛り上げと庁舎建設 ・平成23年からの総務省の「緑の分権改革」に取組み、住民とともに交流会、研修会、森林浴ツアー等を開催し、森林への関心と地元の木材を活用することへの意識の向上を図る取組みを進めてきた結果として、朝日村庁舎を地元木材、自然エネルギー活用の庁舎として建設された。 ・庁舎建設に対して、村民から木を寄付されたこと、建設までの村民参加のプロセスを聞き、村民全員の想いのこもった庁舎建設が進められてきている。 2 自然エネルギーの活用 ・地中熱の活用、太陽光の発電設備など、自然エネルギーを最大限活用しており、環境負荷を軽減している庁舎である。 3 心が温まる木造の香り ・構造材から内装材まで、ふんだんに村内の木材を活用しており、温かみと心が癒される空間ができている。 ・村民から寄付された大黒柱などは、立派な地元木材であり、村民のシンボルとなる、自慢となる庁舎となっている。 4 感想 (1) 庁舎建設までのプロセス、住民と共に村の良さと魅力を活かす緑と木材への取組みを進めてきた結果が庁舎建設の集大成となっている。プロセスに村のストーリー性(村民を巻き込む)を感じた良い取り組みだと思った。 (2) 建設当時のリーダーである中村元村長の想いを強く感じた庁舎でもある。村民の意向をうまくまとめ上げ、元村長の最後の大事業としてリーダシップを発揮され完成させた。 (3) 事業費は当初予定の1.5倍となっているが、地域材の活用、自然エネルギーの活用を積極的に取り入れ、結果として国の補助金を得られ、村の財源は、ほぼ当初予定額で進められてきており、村の財政的、村民の財産としても多くのメリットがある庁舎建設となっている。 (4) 小さな村だからできる取組みもあるが、村民のシンボルとなる庁舎が、地元木材を活用し、自然エネルギーの中で維持管理されている事実は、森林再生とゼロカーボンシティーへの取組みの良い事例であると感じた。 (5) 住民への森林再生、地域の木材の活用のPRとして、行政施設に木材を活用することは、本市としても積極的に進めていくことが必要だと感じた。		

○朝日村保育園、小中学生への取組み

1 感想

- (1) 子供が成長する大切な時期に、地元の木材の中で遊び、学ぶ環境が整備されていることは大事な施策だと思う。
- (2) 温かみのある地元木材の保育園から、子どもなりに感じるものが多くあると思う。自然や森林への関心が高くなっていると思う。
- (3) また、地元木材による小中学校の机や椅子作りも、学ぶ施設を大切にする心が養われると感じた。
- (4) 施設の建設計画の当初から、地元木材の活用が主体で進められてきており、行政の施設から率先して進める施策が必要だと感じた。
- (5) 財源的な限界もあるが、華美や過大に施設計画を進める必要はないが、本市の公共施設も財政面も含め、地元木材を可能な限り、積極的に利用する方針の上で進める必要があると思う。

令和4年2月2日

松本市議会議長 芝山 稔 様

建設環境委員会 副委員長 牛丸 仁志